

鈴鹿市の多文化共生に関するアンケート調査
集計結果

令和5年2月

鈴鹿市

目次

第1章 調査の概要	P1
第2章 調査結果（日本人）	
【問1～3】 回答者属性	P3
【問4～12】 地域での生活について	P3
【問13～17】 外国人市民との交流について	P5
【問18, 19】 多文化共生推進指針について	P6
第3章 調査結果（外国人）	
【問1～8】 回答者属性	P8
【問9～13】 情報について	P9
【問14～20】 言葉について	P11
【問21, 22】 日本語教室について	P12
【問23, 24】 ごみについて	P13
【問25】 子育てについて	P13
【問26, 27】 学校について	P14
【問28～31】 税金・医療・保険について	P14
【問32】 防災について	P15
【問33～35】 地域について	P15
【問36～38】 人権について	P16
【問39～41】 市全般について	P17

第1章 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、日本人市民及び外国人市民の本市の多文化共生施策への理解度や満足度などを把握することにより、令和6年4月に策定する多文化共生推進計画における基礎資料とすることを目的として実施しました。

とりわけ、外国人市民に対しては必要としている情報や行政サービスなど、本市に居住するにあたって、行政へのニーズを深く把握することを目的に、調査事項を設け、調査を実施しました。

2 調査の設計

- (1) 調査対象 市内在住の18歳以上の日本人市民及び外国人市民
- (2) 対象者数 4,000人
(内訳：日本人市民2,000人・外国人市民2,000人)
- (3) 抽出方法 多段階無作為抽出
(令和4年7月14日現在の住民基本台帳から抽出)
- (4) 調査方法 郵送により調査票を配布し、郵送またはWebで回答
- (5) 調査時期 令和4年9月30日から10月31日まで
- (6) 調査内容 日本人市民と外国人市民とそれぞれの異なった調査事項を設け、日本人市民は全19項目、外国人市民は全41項目の調査を行いました。

なお、各調査項目については、多文化共生推進庁内会議の所属と協議・確認のうえ決定しました。

3 回収結果

(1) 日本人市民

回答率：41.7% (834人/2,000人)

※郵送回答：71.7% (598人/834人) WEB回答：28.3% (236人/834人)

(2) 外国人市民

①合計

回答率：21.2% (424人/2,000人)

※郵送回答：56.1% (238人/424人) WEB回答：43.9% (186人/424人)

4 集計方法

日本人市民と外国人市民それぞれの調査項目について、単純集計に加え、一部項目については、設問間（クロス）集計（国籍別など）を実施しています。

なお、集計結果については、全て小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100%にならないことがあります。

5 表記について

アンケート結果内の表記として、以下のとおり統一します。

「日本人市民」→「日本人」

「外国人市民」→「外国人」

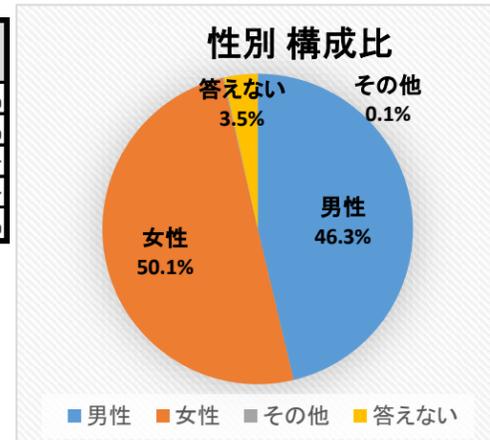
第2章 調査結果(日本人)

1 性別

カテゴリ	配布数 (人)	配布割合 (%)	回答数 (人)	構成比 (%)	回答率 (%)
男性	997	49.9%	386	46.3%	38.7%
女性	1,003	50.2%	418	50.1%	41.7%
その他	-	-	1	0.1%	-
答えない	-	-	29	3.5%	-
合計	2,000	100.0%	834	100.0%	41.7%

※「構成比」=回答数÷回答数の合計

※「回答率」=回答数÷配布数

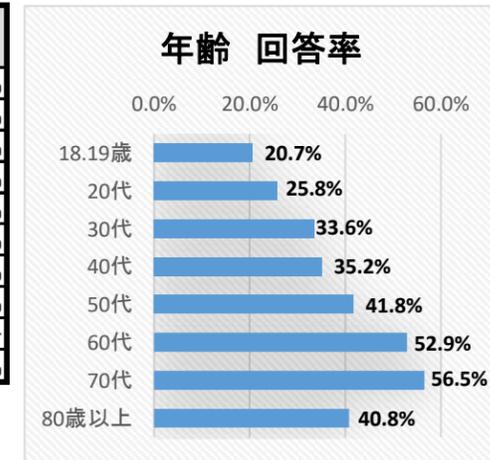


2 年齢

カテゴリ	配布数 (人)	配布割合 (%)	回答数 (人)	構成比 (%)	回答率 (%)
18.19歳	58	2.9%	12	1.4%	20.7%
20代	233	11.7%	60	7.2%	25.8%
30代	265	13.3%	89	10.7%	33.6%
40代	347	17.4%	122	14.6%	35.2%
50代	366	18.3%	153	18.3%	41.8%
60代	255	12.8%	135	16.2%	52.9%
70代	292	14.6%	165	19.8%	56.5%
80歳以上	184	9.2%	75	9.0%	40.8%
未回答	-	-	23	2.8%	-
合計	2,000	100.0%	834	100.0%	41.7%

※「構成比」=回答数÷回答数の合計

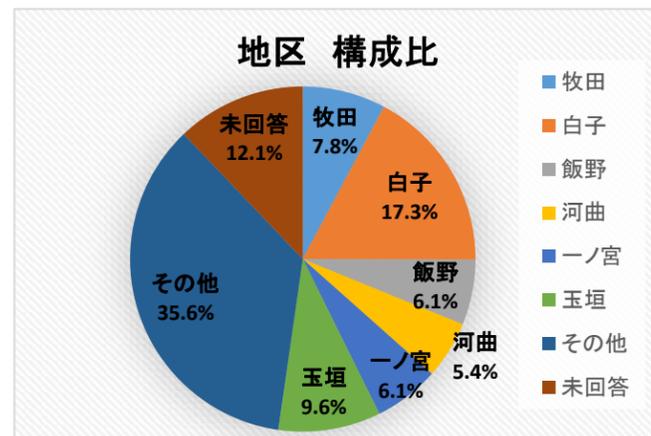
※「回答率」=回答数÷配布数



「60代」(52.9%)及び「70代」(56.5%)の回答率が50%を超えているのに対し、「18, 19歳」(20.7%)、「20代」(25.8%)と若年層の回答率が低い値となっており、年代による回答率の偏りがあった。

3 地区

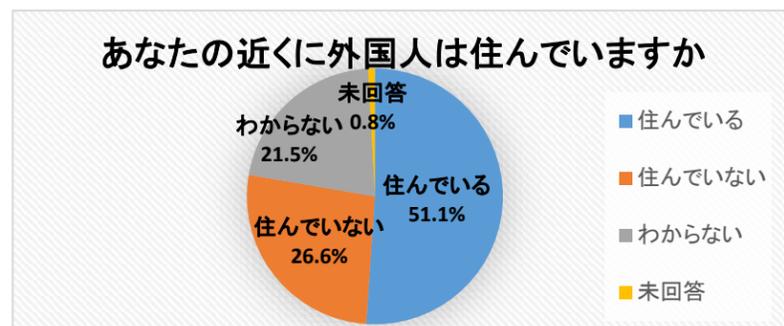
カテゴリ	回答数(人)	構成比(%)
牧田	65	7.8%
白子	144	17.3%
飯野	51	6.1%
河曲	45	5.4%
一ノ宮	51	6.1%
玉垣	80	9.6%
その他	297	35.6%
未回答	101	12.1%
合計	834	100.0%



4. あなたの近くに外国人は住んでいますか

カテゴリ	回答数(人)	構成比(%)
住んでいる	426	51.1%
住んでいない	222	26.6%
わからない	179	21.5%
未回答	7	0.8%
合計	834	100.0%

「住んでいる」(51.1%)となり、回答者の過半数において近隣住民に外国人がいるという結果となった。

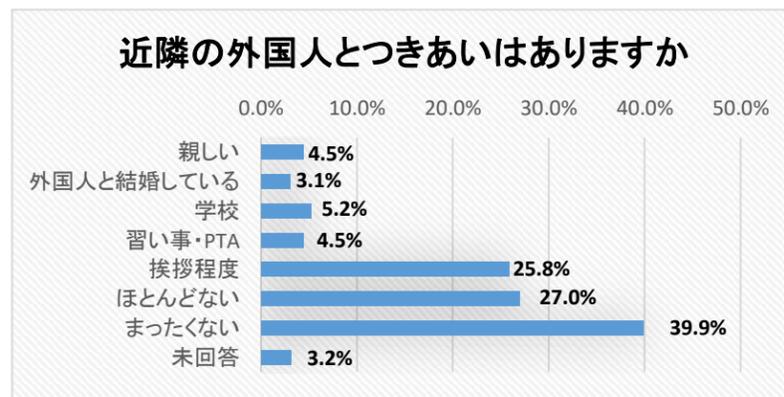


5. 近隣の外国人とつきあいはありますか

※複数回答あり

※問4で「住んでいる」と回答した方のみ回答 n=426

カテゴリ	回答数(人)	構成比(%)
親しい	19	4.5%
外国人と結婚している	13	3.1%
学校	22	5.2%
習い事・PTA	19	4.5%
挨拶程度	110	25.8%
ほとんどない	115	27.0%
まったくない	170	39.9%
未回答	7	3.2%

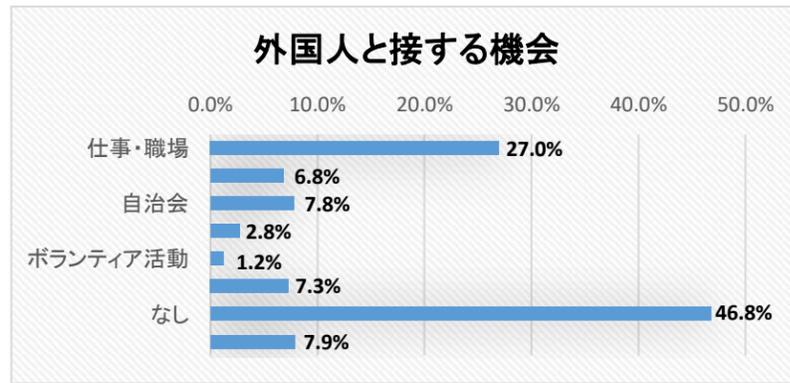


問4において、回答者の過半数(51.1%)の方が外国人の近隣に居住していることを認識しているものの、外国人との付き合いについては、「ほとんどない」(27.0%)、「まったくない」(39.9%)との回答から6割を超える方が外国人との関係が希薄であるとの結果となった。

6. 外国人と接する機会

※複数回答あり(n=834人)

カテゴリ	回答数(人)	構成比(%)
仕事・職場	225	27.0%
学校	57	6.8%
自治会	65	7.8%
趣味の活動	23	2.8%
ボランティア活動	10	1.2%
その他	61	7.3%
なし	390	46.8%
未回答	66	7.9%

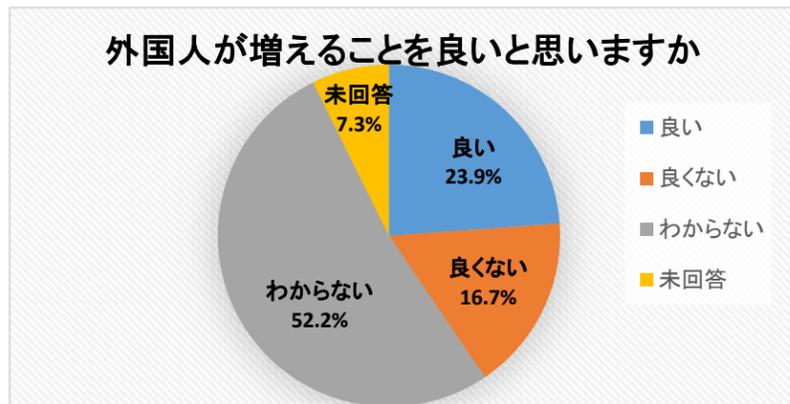


外国人と接する機会については、「仕事・職場」(27.0%)が一番高い結果となった。

7. 外国人が増えることを良いと思いますか

カテゴリ	回答数(人)	構成比(%)
良い	199	23.9%
良くない	139	16.7%
わからない	435	52.2%
未回答	61	7.3%
合計	834	100.0%

「良い」(23.9%)の回答者が「良くない」(16.7%)の回答者を若干上回ったものの、回答者の半数以上が「わからない」と回答しており、日本人の多文化共生社会に対する実感や認識が希薄であることが読み取れる。

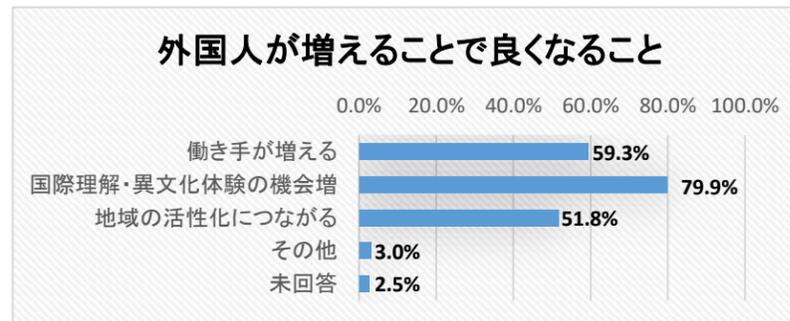


8. 外国人が増えることで良くなること

※複数回答あり

※問7で「良い」と回答した方のみ回答 (n=199人)

カテゴリ	回答数(人)	構成比(%)
働き手が増える	118	59.3%
国際理解・異文化体験の機会増	159	79.9%
地域の活性化につながる	103	51.8%
その他	6	3.0%
未回答	5	2.5%

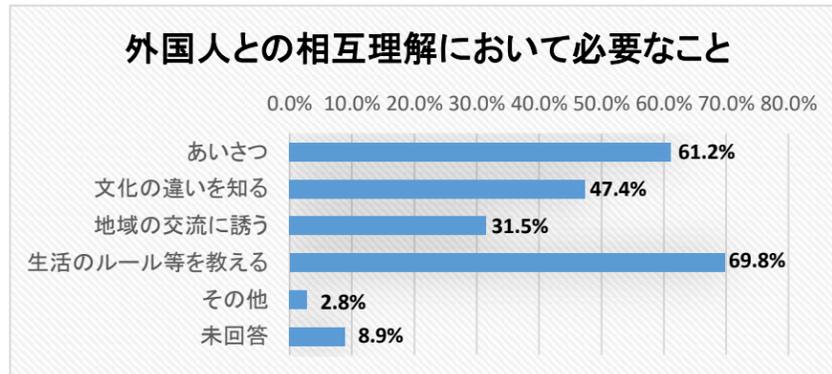


問7で外国人が増えると「良い」と回答した199人のうち、79.9%の方「国際理解・異文化体験の機会増」を選択しており、非常に高い値となった。次いで、「働き手が増える」(59.3%)、「地域の活性化につながる」(51.8%)といずれも高い値を示している。

10. 外国人との相互理解において必要なこと

※複数回答あり(n=834人)

カテゴリ	回答数(人)	構成比(%)
あいさつ	510	61.2%
文化の違いを知る	395	47.4%
地域の交流に誘う	263	31.5%
生活のルール等を教える	582	69.8%
その他	23	2.8%
未回答	74	8.9%

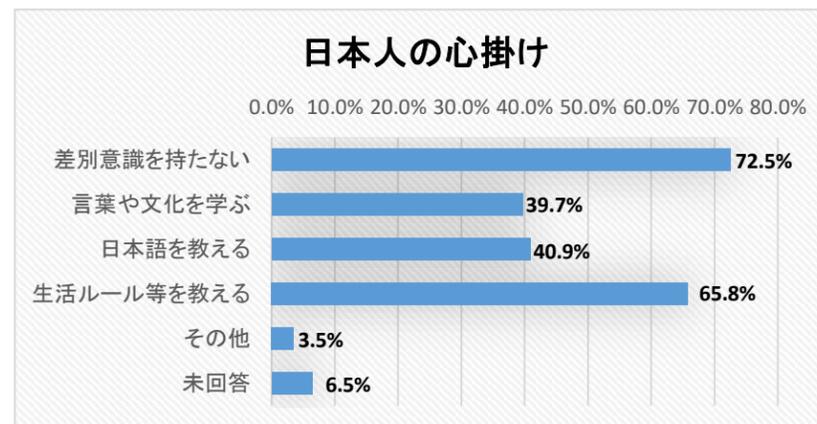


外国人との相互理解において、「生活のルール等を教える」(69.8%)と回答した方が最も高い割合を示しており、共に地域社会で暮らしていく中で、日本のルール、地域のルールを外国人に知ってもらうことが求められている。

11. 地域社会で共に暮らしていくうえでの、日本人の心掛け

※複数回答あり(n=834人)

カテゴリ	回答数(人)	構成比(%)
差別意識を持たない	605	72.5%
言葉や文化を学ぶ	331	39.7%
日本語を教える	341	40.9%
生活ルール等を教える	549	65.8%
その他	29	3.5%
未回答	54	6.5%

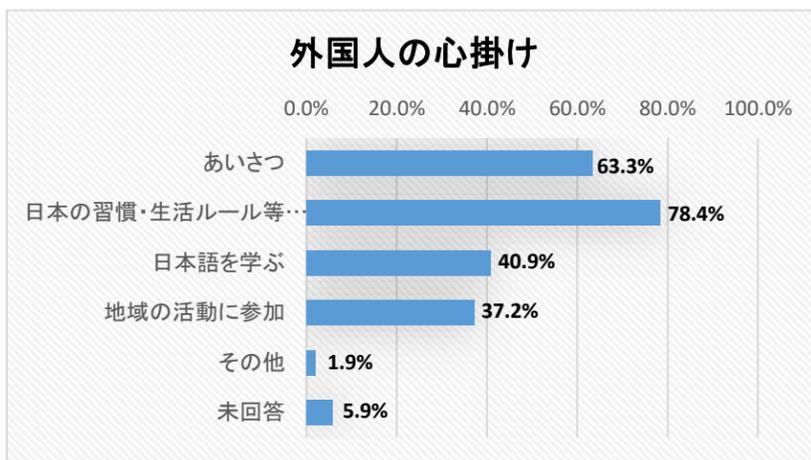


日本人の心掛けとして、「差別意識を持たない」(72.5%)が最も高く、次いで「生活ルール等を教える」(65.8%)が高い値となった。

12. 地域社会で共に暮らしていくうえでの、外国人の心掛け

※複数回答あり(n=834人)

カテゴリ	回答数(人)	構成比(%)
あいさつ	528	63.3%
日本の習慣・生活ルール等への理解	654	78.4%
日本語を学ぶ	341	40.9%
地域の活動に参加	310	37.2%
その他	16	1.9%
未回答	49	5.9%

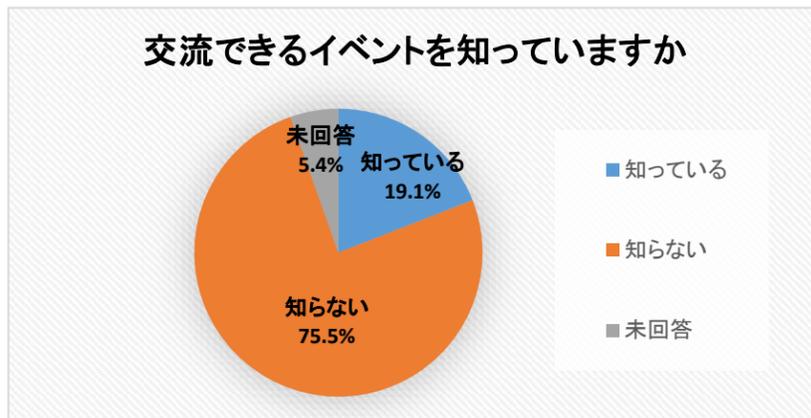


「生活ルール」については、問10, 11でも高い値を示しており、地域社会で共存していくうえで、日本人は、外国人に生活ルールの理解を求めていることが読み取れる。

13. 外国人と交流できるイベント(SIFAのイベント等)を知っていますか

カテゴリ	回答数(人)	構成比(%)
知っている	159	19.1%
知らない	630	75.5%
未回答	45	5.4%
合計	834	100.0%

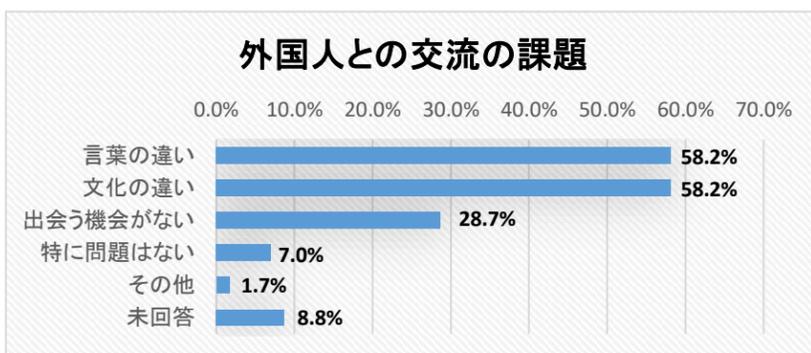
「知っている」との回答が、19.1%と低調なものとなった。



14. 外国人との交流の課題

※複数回答あり(n=834人)

カテゴリ	回答数(人)	構成比(%)
言葉の違い	485	58.2%
文化の違い	485	58.2%
出会う機会がない	239	28.7%
特に問題はない	58	7.0%
その他	14	1.7%
未回答	73	8.8%

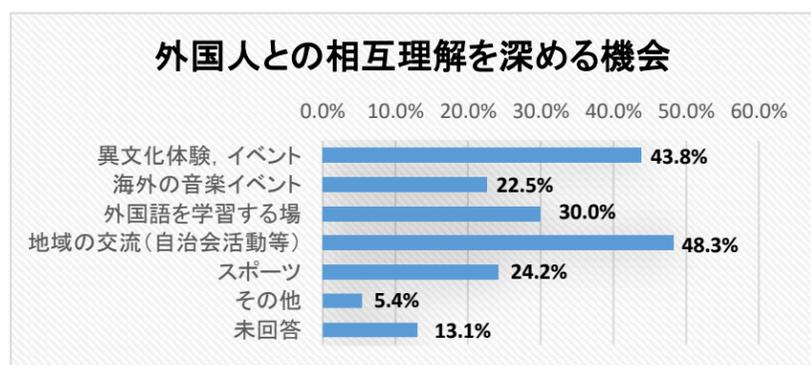


「言葉の違い」(58.1%)と「文化の違い」(58.1%)が共に高い値を示しており、外国人との交流を進めるうえで、「言葉の壁」が大きな問題の一つであることが読み取れる。

15. 外国人との相互理解を深める機会

※複数回答あり(n=834人)

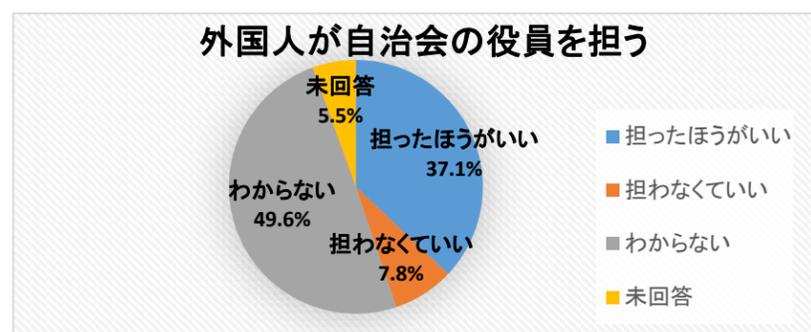
カテゴリ	回答数(人)	構成比(%)
異文化体験, イベント	365	43.8%
海外の音楽イベント	188	22.5%
外国語を学習する場	250	30.0%
地域の交流(自治会活動等)	403	48.3%
スポーツ	202	24.2%
その他	45	5.4%
未回答	109	13.1%



外国人と交流する機会として、「地域の交流(自治会活動等)」(48.3%)、「異文化体験, イベント」(43.8%)が高い値を示した。

16. 外国人が自治会の役員を担う

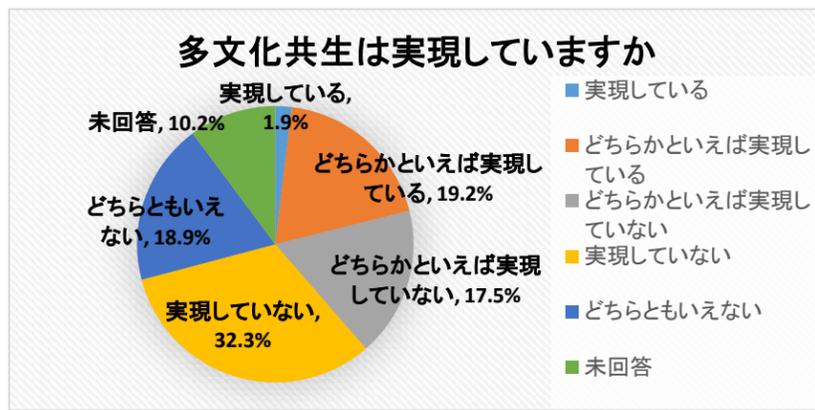
カテゴリ	回答数(人)	構成比(%)
担ったほうがいい	309	37.1%
担わなくていい	65	7.8%
わからない	414	49.6%
未回答	46	5.5%
合計	834	100.0%



「担ったほうがいい」と回答した人は、30.9%に留まっているものの、「担わなくていい」(7.2%)と回答した人は特に少なく、外国人にも自治会役員を担うべきとの認識の方が上回っていることがわかる。その一方で、「わからない」(42.5%)、「未回答」(19.4%)を合計は6割を超えている。

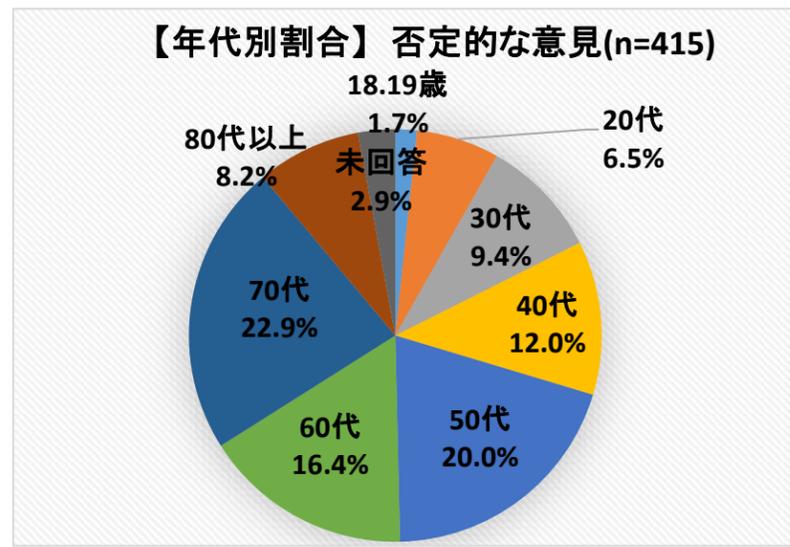
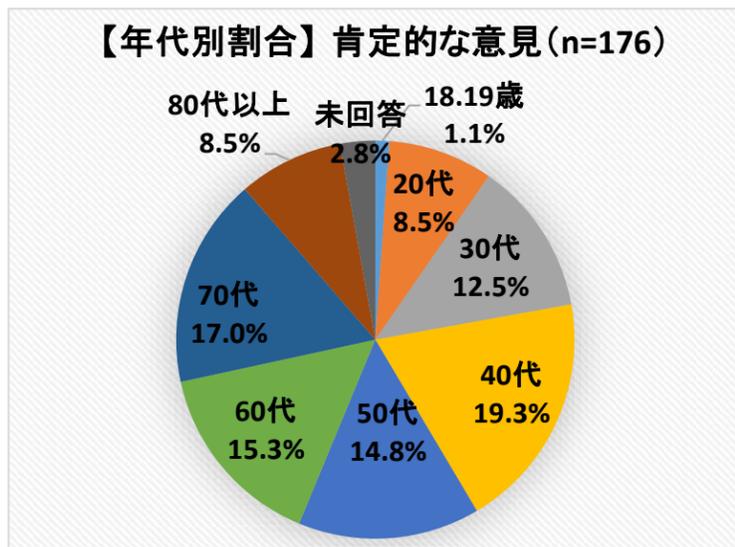
18.多文化共生は実現していますか

カテゴリ	回答数(人)	構成比(%)
実現している	16	1.9%
どちらかといえば実現している	160	19.2%
どちらかといえば実現していない	146	17.5%
実現していない	269	32.3%
どちらともいえない	158	18.9%
未回答	85	10.2%
合計	834	100.0%



多文化共生の実現について、「実現している」(1.9%)、「どちらかといえば実現している」(19.2%)を合計しても、肯定的な回答は約2割と低調な値となっており、「どちらかといえば実現していない」(17.5%)、「実現していない」(32.3%)といったネガティブが回答(約5割)が上回る結果となった。

18.【クロス集計】 多文化共生は実現していますか



「多文化共生」に関する理解度について、「肯定的な意見」と「否定的な意見」を年代別でクロス集計したが、年代による大きな偏りは見られなかったが、「50～70代」については、若干否定的な意見多い傾向となった。

19.「実現している」と思う理由(抜粋)

- 行政
 - 市役所等の公的機関で、説明・案内の表記に英語以外の言語があるため
- 交流
 - ・鈴鹿は多国籍文化だということは、もうすでに定着しているように思う。例外はあれど、自然と共生できていると思う。
 - ・外国人市民の方々と生活している中で特に問題として感じられることがないため
 - ・年々外国人市民の人口比率が高くなっているため。
 - ・異文化を理解し普通に接している
 - ・外国人定住者が増加または横ばいであり、共生社会がある程度は、実現していると考えられる。
- 就労
 - ・コンビニの店員さんとかでも外国の方結構居ますが頑張って日本語で接客してくれるのをよく見るから
 - ・たくさんの外国人が働いたり、学生として鈴鹿で学んでいると思うので。
 - ・近隣の多くのお店で従業員として普通に働いている。(なんなら日本人より愛想がよくテキパキしてる)
 - ・鈴鹿は外国の方が多くいる地域なので仕事などもしやすいのではないかと考えるため。
- 教育・子育て
 - ・外国人用の教室があることが当たり前になっているから
 - ・昔と比べて外国人の方が周りに増え、子どもたちも違和感なくみんな仲良く遊んでいるから
 - ・子供たちが国関係なく遊んでいる。
- 人権
 - ・学校や職場である程度は差別なく過ごせていると思う。
 - ・近所の外国人が疎外されている感じがしない
 - ・身の回りで酷い差別的な発言を聞かないため。
 - ・日常の中で文化的な違いを認めて差別意識なく生活できているので多文化共生社会にすでになっていると思います。
- 交通・防犯
 - ・大きな事件や争い事などに発展していないから
- 都市
 - ・外国市民が経営してるお店・飲食店をよく見かけるから

20.「実現していない」と思う理由(抜粋)

■行政

- ・発信力が弱いので、鈴鹿市が多文化共生社会を推進していることを全く知らなかった
- ・「多文化共生社会推進指針」を初めて知った。
- ・目に見えて取り組みの内容がわからない
- ・やはりまだまだ外国籍の人たちをサポートする体制が整っていないように感じる。
- ・まだその政策が市民に浸透していないから。
- ・10年前の鈴鹿市と比較して、変化を感じないため。
- ・対等な関係を築こうとする活動が見えないため

■交流

- ・活動、自治会に参加していないから。
- ・実際に、外国人と日本人が交流しているのを見たことがない、別々に距離をとって生活しているように見える
- ・交流の場が少なく、互いのコミュニケーションが取れて居ないと思います。
- ・外国人の方が行事に参加している事が少ないので。
- ・そもそも日本人と日本人のつながりも薄く感じられる。一方、外国人同士では親戚ぐるみのバーベキューなど、強いつながりに映る光景を目にする。結果、返って日本人と外国人との間に溝を感じることもある。私自身も市外転入だが、「村感」が少なく、よそ者に寛容な雰囲気は感じた。一方、それが地域のつながりの弱さによるもの裏返しなのなら、寂しい。日本人外国人余所者地元関係なく、スーパーやコンビニで普通に挨拶や会釈が交わされる町でありたい。
- ・交流の場が少ないため、お互いが遠慮しあって干渉しないようにしよう、といったよそよそしさがみてとれる
- ・身近な地域で外国人が関わる事例を知らない。
- ・昔に比べて親同士、近所など、日本人同士の繋がりも薄いので、子ども達も、学年が違ふとあまり関わりがない、喋らないなど、希薄な現状に、時々寂しさを感じることもあります。地域の活動の中や、学校の中など、学年の垣根を越えた関わりあいがあるといいかなと感じます。

■言語

- ・まだまだ言葉の壁や文化の違いの差がある

■学校・子育て

- ・PTAコミュニティで空き時間にママ達が会話している輪の中に外国人ママが入っていきず孤立していたり、外国人のお店の前に並んでいる人々に日本人がいない等。

■都市

- ・多文化共生社会の真の意味を市民は知らないから
- ・生活している中で感じたことがないから
- ・もっとお互いが理解し合える環境や教育が必要
- ・文化の違いどころでなく、マナーを学ぶべき。BBQを庭でするにしても気を使う、道路上の車の止め方など
- ・交流が無いから。町中で見るが接する機会はない。

■交通・防犯

- ・外国人、日本人も交通のルールが守られていない
- ・迷惑行為や犯罪をする外国人の話をよく聞く。

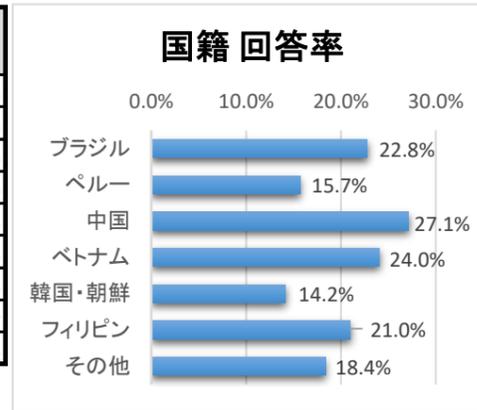
第3章 調査結果(外国人)

1 国籍について

カテゴリ	配布数 (人)	配布割合 (%)	回答数 (人)	構成比 (%)	回答率 (%)
ブラジル	636	31.8%	145	34.2%	22.8%
ペルー	236	11.8%	37	8.7%	15.7%
中国	199	10.0%	54	12.7%	27.1%
ベトナム	208	10.4%	50	11.8%	24.0%
韓国・朝鮮	127	6.4%	18	4.2%	14.2%
フィリピン	186	9.3%	39	9.2%	21.0%
その他	408	20.4%	75	17.7%	18.4%
未回答	-	-	6	1.4%	-
合計	2000	100%	424	100%	21.2%

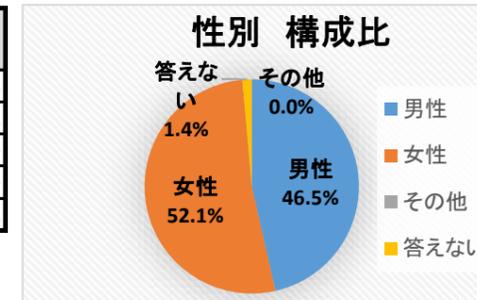
※「構成比」=回答数÷回答数の合計
 ※「回答率」=回答数÷配布数

国籍別の回答数については、人口の多いブラジル(145人)が突出しているが、国籍別の配布数に対する回答率(=回答数÷配布数)は、中国(27.1%)が一番高い結果となった。



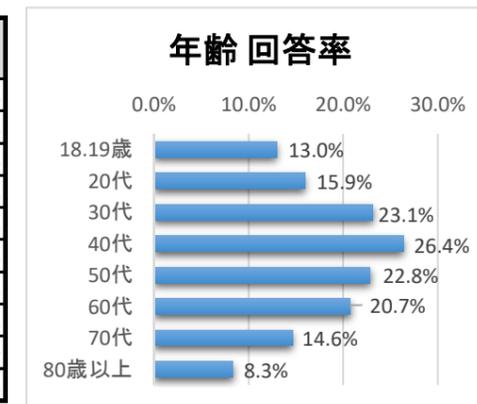
2 性別について

カテゴリ	配布数 (人)	配布割合 (%)	回答数 (人)	構成比 (%)	回答率 (%)
男性	1037	51.9%	197	46.5%	19.0%
女性	963	48.2%	221	52.1%	22.9%
その他	-	-	0	0.0%	-
答えない	-	-	6	1.4%	-
合計	2000	100%	424	100%	21.2%



3 年齢構成について

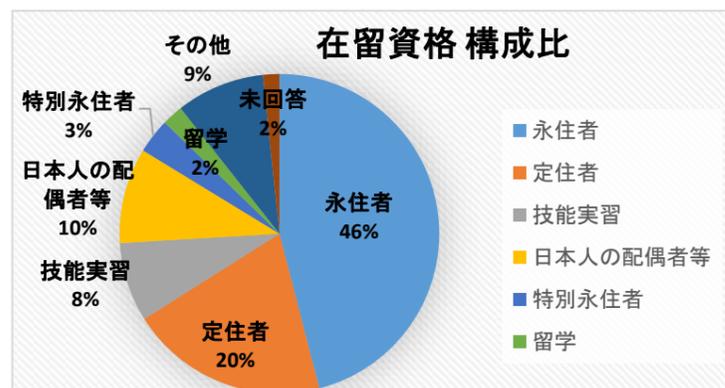
カテゴリ	配布数 (人)	構成比 (%)	回答数 (人)	構成比 (%)	回答率 (%)
18.19歳	54	2.7%	7	1.7%	13.0%
20代	558	27.9%	89	21.0%	15.9%
30代	459	23.0%	106	25.0%	23.1%
40代	402	20.1%	106	25.0%	26.4%
50代	359	18.0%	82	19.3%	22.8%
60代	111	5.6%	23	5.4%	20.7%
70代	41	2.1%	6	1.4%	14.6%
80歳以上	12	0.6%	1	0.2%	8.3%
未回答	-	-	4	0.9%	-
合計	2000	100.0%	424	100.0%	21.2%



配布数に対して、10代の回答率(13.0%)は低いものの、30代から60代までの回答率は20%を超えており、日本人に比べ、年代別の回答率の差が小さいものとなった。

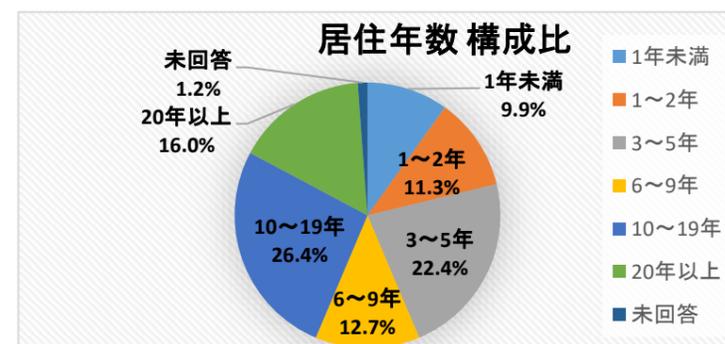
4 在留資格について

カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
永住者	195	46.0%
定住者	85	20.0%
技能実習	34	8.0%
日本人の配偶者等	41	9.7%
特別永住者	15	3.5%
留学	9	2.1%
その他	38	9.0%
未回答	7	1.7%
合計	424	100.0%



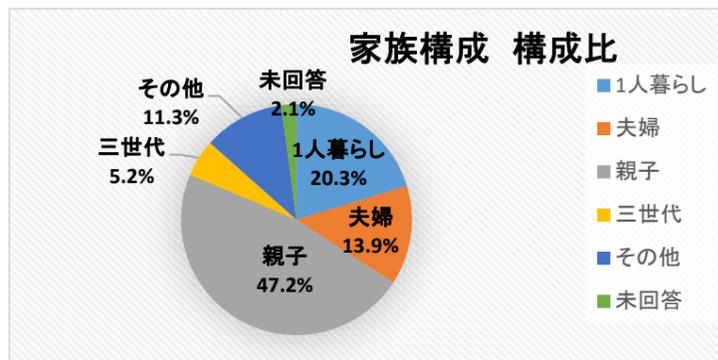
5 居住年数について

カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
1年未満	42	9.9%
1~2年	48	11.3%
3~5年	95	22.4%
6~9年	54	12.7%
10~19年	112	26.4%
20年以上	68	16.0%
未回答	5	1.2%
合計	424	100.0%



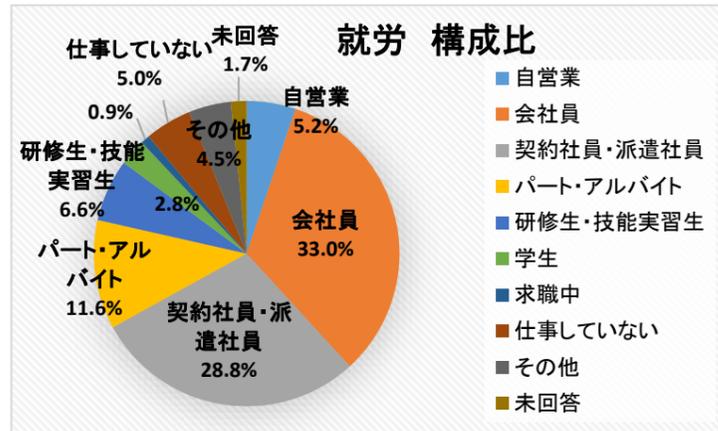
6 家族構成について

カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
1人暮らし	86	20.3%
夫婦	59	13.9%
親子	200	47.2%
三世代	22	5.2%
その他	48	11.3%
未回答	9	2.1%
合計	424	100.0%



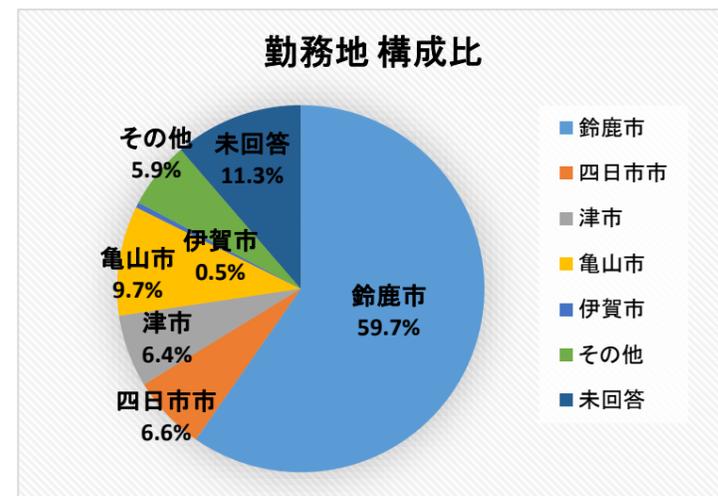
7 就労について

カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
自営業	22	5.2%
会社員	140	33.0%
契約社員・派遣社員	122	28.8%
パート・アルバイト	49	11.6%
研修生・技能実習生	28	6.6%
学生	12	2.8%
求職中	4	0.9%
仕事していない	21	5.0%
その他	19	4.5%
未回答	7	1.7%
合計	424	100.0%



8 勤務地について

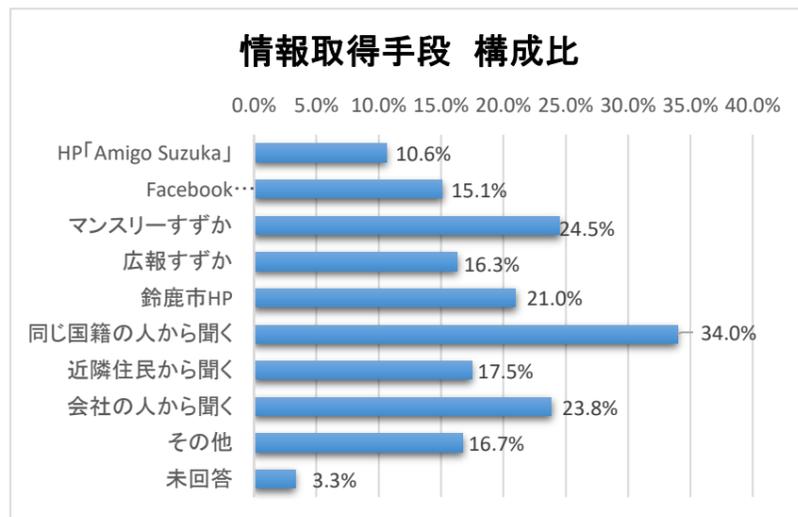
カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
鈴鹿市	253	59.7%
四日市市	28	6.6%
津市	27	6.4%
亀山市	41	9.7%
伊賀市	2	0.5%
その他	25	5.9%
未回答	48	11.3%
合計	424	100.0%



9 情報の取得手段について

※複数回答あり(n=424人)

カテゴリ	回答数 (件)	構成比 (%)
HP「Amigo Suzuka」	45	10.6%
Facebook「Amigo Suzuka」	64	15.1%
マンスリーずか	104	24.5%
広報ずか	69	16.3%
鈴鹿市HP	89	21.0%
同じ国籍の人から聞く	144	34.0%
近隣住民から聞く	74	17.5%
会社の人から聞く	101	23.8%
その他	71	16.7%
未回答	14	3.3%

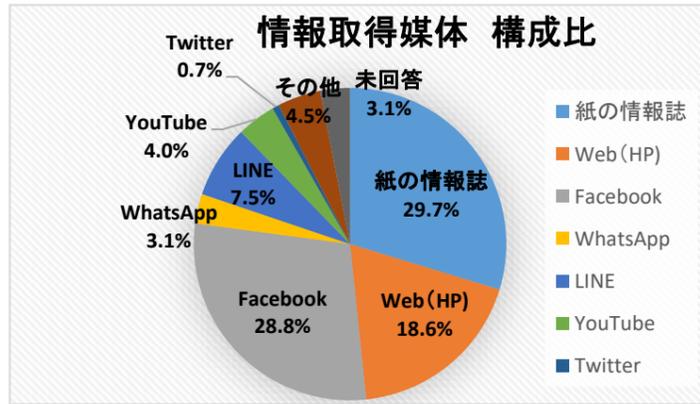


行政情報の取得手段として、「同じ国籍の人から聞く」が一番高い割合(34.0%)を占めていることから、如何に各国籍の外国人コミュニティに情報を取得してもらえるかが、情報拡散の鍵である。

また、2番めに高い「マンスリーずか」の回答者を国籍別でみると、104件中73件がブラジル国籍であることから、母国語での情報取得が大きなポイントであることから読み取れる。

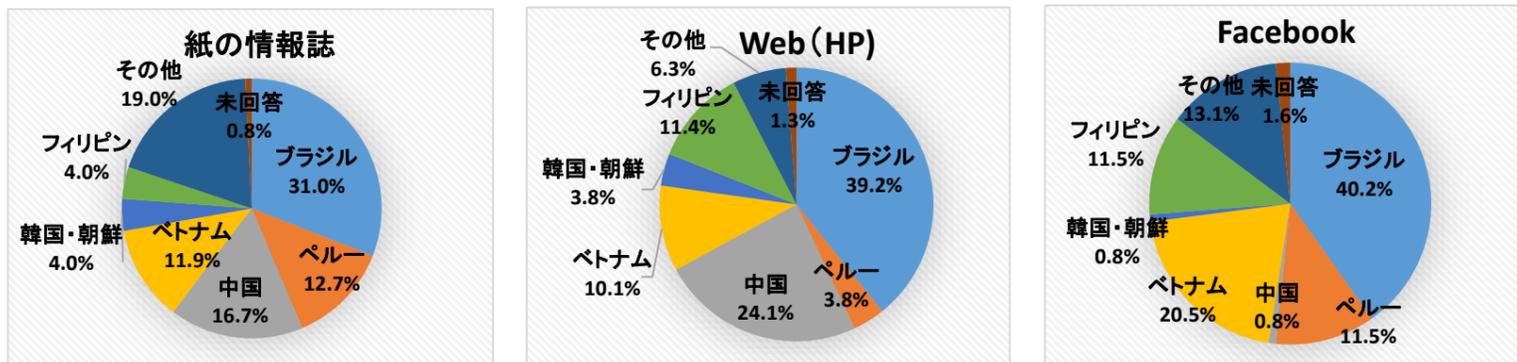
10 情報の取得媒体について

カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
紙の情報誌	126	29.7%
Web(HP)	79	18.6%
Facebook	122	28.8%
WhatsApp	13	3.1%
LINE	32	7.5%
YouTube	17	4.0%
Twitter	3	0.7%
その他	19	4.5%
未回答	13	3.1%
合計	424	100.0%



「Web(HP)」や「Facebook」等、インターネットを活用した情報取得媒体を合計すると62.7%となり、1位の「紙の情報誌(29.7%)」を大きく上回ることから、電子媒体での情報発信の需要が高いことが読み取れる。

10 【クロス集計】 国籍別の情報取得媒体

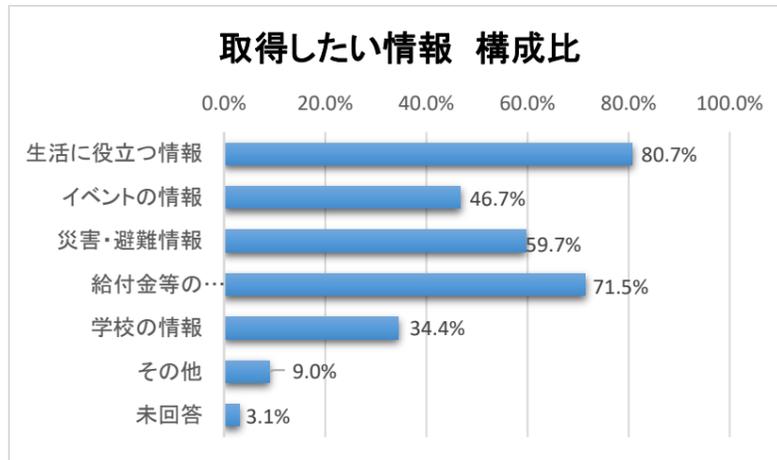


「紙の情報誌」については、SIFAが発行する「マンスリーすずか(ポルトガル語、スペイン語、やさしい日本語)」の影響もあり、「ブラジル」、「ペルー」の割合が高いものとなった。また、「Facebook」の利用については、紙媒体同様、「ブラジル」、「ペルー」の利用率が高いことに加え、「ベトナム」、「フィリピン」等、他の国籍への情報発信に適していることがわかった。その一方で、「中国」については、Facebookの回答割合が極端に低いことから、電子媒体についてはWeb(HP)での発信が適しているとの結果となった。

11 取得したい情報について

※複数回答あり(n=424人)

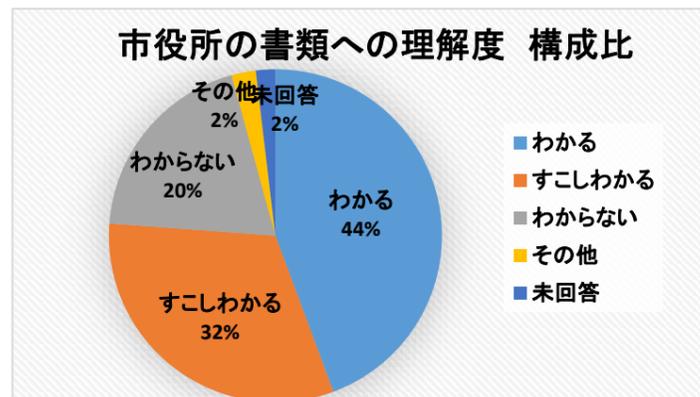
カテゴリ	回答数 (件)	構成比 (%)
生活に役立つ情報	342	80.7%
イベントの情報	198	46.7%
災害・避難情報	253	59.7%
給付金等のお金の情報	303	71.5%
学校の情報	146	34.4%
その他	38	9.0%
未回答	13	3.1%



取得したい情報として「生活に役立つ情報」が全回答者の8割を超える非常に高い値となった。このことから、日本人同様、外国人に対しても生活に密着した行政情報の発信が不可欠であることが考えられる。また、「給付金等のお金の情報」についても、7割を超える方が回答しており、本設問から外国人が如何に生活する上での情報を重要視しているかが読み取れる。

12 市役所の書類への理解度について

カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
わかる	188	44.3%
すこしわかる	135	31.8%
わからない	83	19.6%
その他	10	2.4%
未回答	8	1.9%
合計	424	100.0%

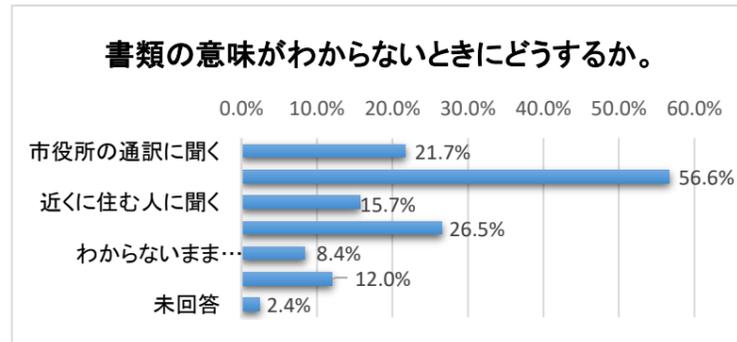


13 書類の意味がわからないときにどうするか

※複数回答あり

※問12で「わからない」と回答した方のみ回答 n=83人

カテゴリ	回答数 (件)	構成比 (%)
市役所の通訳に聞く	18	21.7%
家族や友達に聞く	47	56.6%
近くに住む人に聞く	13	15.7%
会社の人に聞く	22	26.5%
わからないまま にしておく	7	8.4%
その他	10	12.0%
未回答	2	2.4%

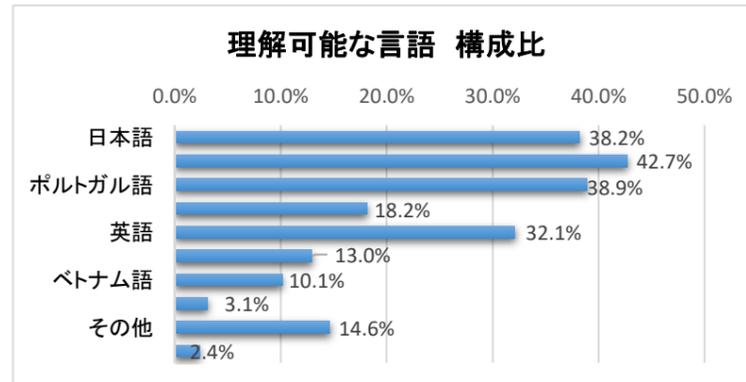


行政文書の内容がわからないの対応として、最も多かったのは「家族や友達に聞く」(56.6%)であり、次いで、「会社の人に聞く」(26.5%)、「市役所の通訳に聞く」(21.7%)であった。

14 理解可能な言語について

※複数回答あり(n=424人)

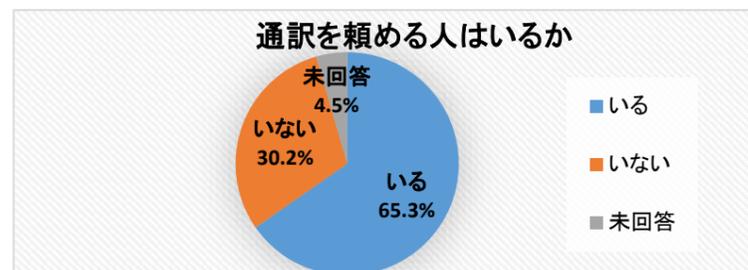
カテゴリ	回答数 (件)	構成比 (%)
日本語	162	38.2%
やさしい日本語	181	42.7%
ポルトガル語	165	38.9%
スペイン語	77	18.2%
英語	136	32.1%
中国語	55	13.0%
ベトナム語	43	10.1%
韓国語	13	3.1%
その他	62	14.6%
未回答	10	2.4%



理解可能な言語として、「やさしい日本語」(42.7%)が一番高い値を示した。

15 通訳を頼める人はいるか(友人や会社など)

カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
いる	277	65.3%
いない	128	30.2%
未回答	19	4.5%
合計	424	100.0%

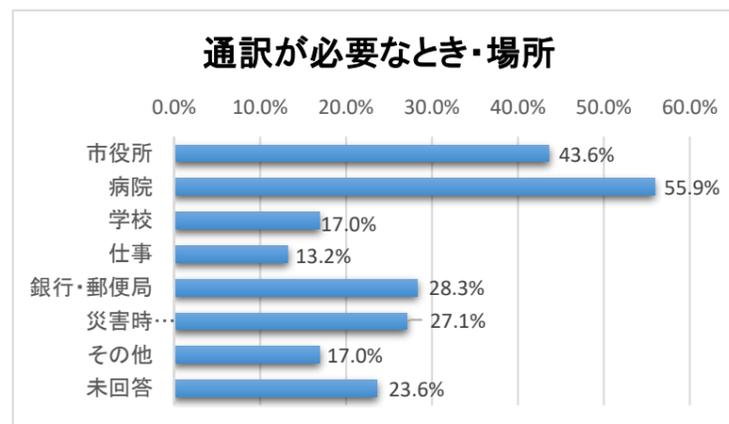


友人等に通訳を頼めると回答した外国人が6割を超える一方で、「いない」と回答した方が3割ほどおり、自助努力で日本語を理解する必要がある方が一定する存在することがわかった。

16 通訳が必要なとき・場所

※複数回答あり(n=424人)

カテゴリ	回答数 (件)	構成比 (%)
市役所	185	43.6%
病院	237	55.9%
学校	72	17.0%
仕事	56	13.2%
銀行・郵便局	120	28.3%
災害時 (地震・台風等)	115	27.1%
その他	72	17.0%
未回答	100	23.6%

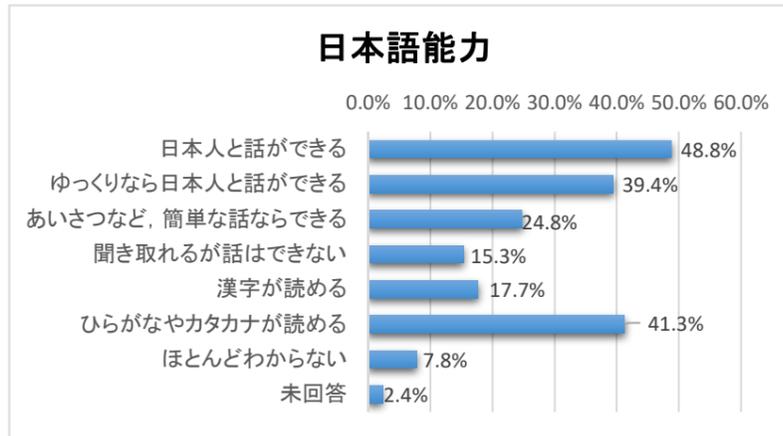


通訳が必要な場面として、「病院」に次いで、「市役所」が43.6%と高い値を示した。

17 日本語能力

※複数回答あり(n=424人)

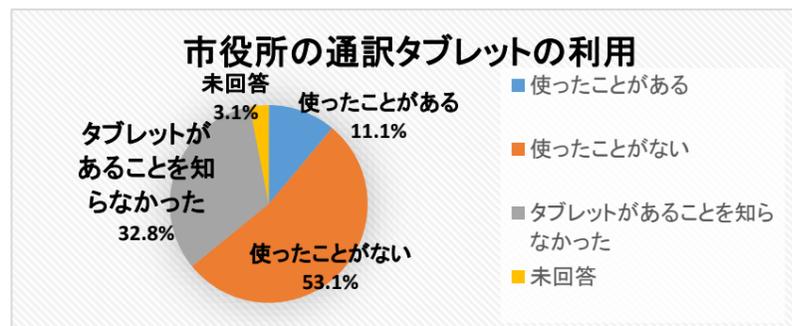
カテゴリ	回答数 (件)	構成比 (%)
日本人と話ができる	207	48.8%
ゆっくりなら日本人と話ができる	167	39.4%
あいさつなど、簡単な話ならできる	105	24.8%
聞き取れるが話話できない	65	15.3%
漢字が読める	75	17.7%
ひらがなやカタカナが読める	175	41.3%
ほとんどわからない	33	7.8%
未回答	10	2.4%



「聞き取れるが話話できない」(15.3%)、「ほとんどわからない」(7.8%)と一定数の外国人が日本語がわからないなかで生活していることがわかる。

18 市役所の通訳タブレットの利用

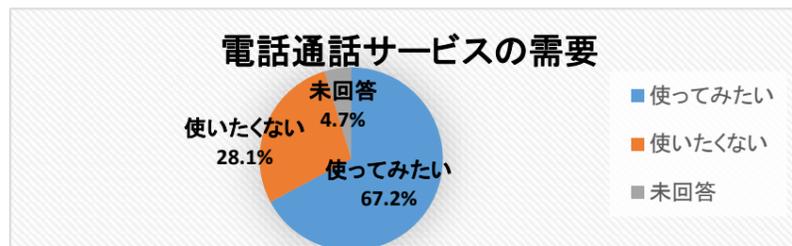
カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
使ったことがある	47	11.1%
使ったことがない	225	53.1%
タブレットがあることを知らなかった	139	32.8%
未回答	13	3.1%
合計	424	100.0%



通訳タブレットの利用について、利用した経験がある方は、1割ほどに留まっており、約3割の外国人が通訳タブレットの存在すら認知されていない状況であった。

19 電話通話サービスの需要

カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
使ってみたい	285	67.2%
使いたくない	119	28.1%
未回答	20	4.7%
合計	424	100.0%



電話通話サービスについて、「使ってみたい」と回答した方が約7割近くおり、行政窓口への多言語化のニーズが高いことがわかる。

20 19の使いたくない理由

※複数回答あり

※問19で「使いたくない」と回答した方のみ回答 n=119人

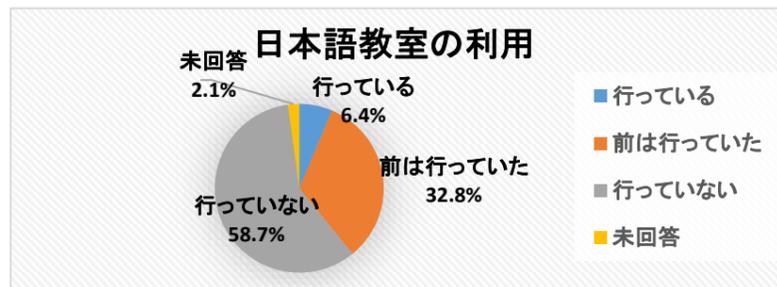
カテゴリ	回答数 (件)	構成比 (%)
通話料がかかるから	15	12.6%
市役所に行って相談したいから	38	31.9%
市役所の通訳に相談したいから	14	11.8%
その他	60	50.4%
未回答	5	4.2%



電話通話サービスを使いたくない理由としては、「その他」を除くと、「市役所に行って相談したい」が高い値を示した。また、電話であることのデメリットである「通話料の発生」については、12.6%と低い値であった。

21 日本語教室の利用

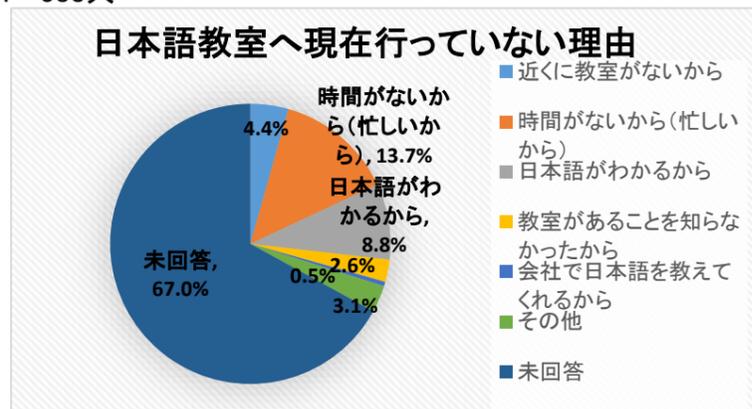
カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
行っている	27	6.4%
前は行っていた	139	32.8%
行っていない	249	58.7%
未回答	9	2.1%
合計	424	100.0%



22 日本語教室へ現在行っていない理由

※問21『前は行っていた』、『行っていない』の人のみ回答 n=388人

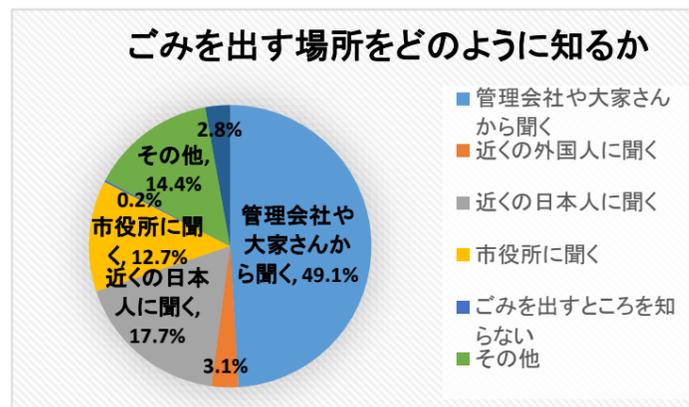
カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
近くに教室がないから	17	4.4%
時間がないから(忙しいから)	53	13.7%
日本語がわかるから	34	8.8%
教室があることを知らなかったから	10	2.6%
会社で日本語を教えてくれるから	2	0.5%
その他	12	3.1%
未回答	260	67.0%
合計	388	100.0%



日本語教室の利用について、「日本語がわかるから」という理由で利用していない方は、1割未満と低調なものであり、「時間がない」、「近くに教室がない」など、何らかの理由で教室を利用していないことが読み取れた。また、「教室があることを知らない」を選択した外国人はわずか2.6%であり、外国人の中で日本語教室の存在は認知されていることがわかった。

23 ごみを出す場所をどのように知るか

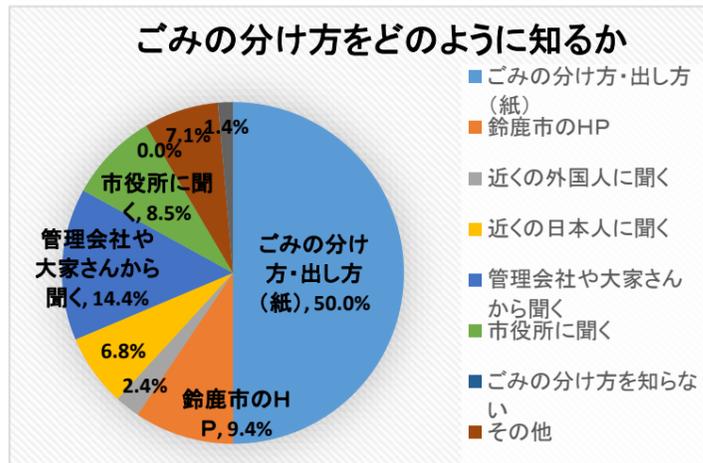
カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
管理会社や大家さんから聞く	208	49.1%
近くの外国人に聞く	13	3.1%
近くの日本人に聞く	75	17.7%
市役所に聞く	54	12.7%
ごみを出すところを知らない	1	0.2%
その他	61	14.4%
未回答	12	2.8%
合計	424	100.0%



ごみを出す場所の知る方法として、「管理会社等に聞く」が過半数を占めた。

24 ごみの分け方をどのように知るか

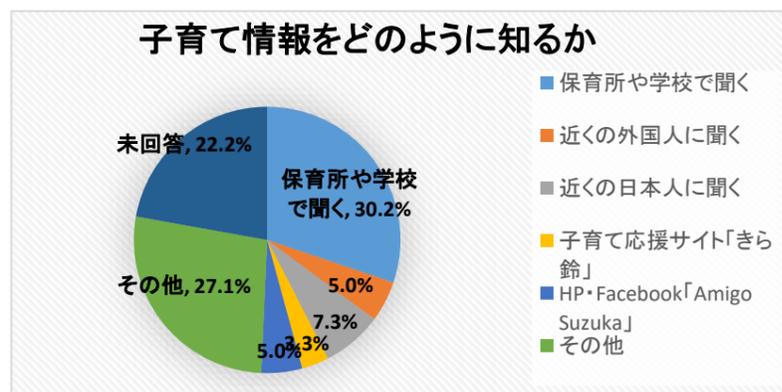
カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
ごみの分け方・出し方(紙)	212	50.0%
鈴鹿市のHP	40	9.4%
近くの外国人に聞く	10	2.4%
近くの日本人に聞く	29	6.8%
管理会社や大家さんから聞く	61	14.4%
市役所に聞く	36	8.5%
ごみの分け方を知らない	0	0.0%
その他	30	7.1%
未回答	6	1.4%
合計	424	100.0%



ごみの分け方については、「ごみの分け方・出し方(紙)」が過半数を占めており、外国人にとって、多言語化されていることが大きな情報取得手段となっていることがわかる。加えて、問23では「管理会社に聞く」が多かったのに対し、本質問では、14.4%に留まるなど、「ごみの分け方」については、「分け出し(紙)」(50%)、「市HP」(9.4%)、「市役所に聞く」(8.5%)といったように行政から発信する情報が重要視されていることが考えられる。

25 子育て情報をどのように知るか

カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
保育所や学校で聞く	128	30.2%
近くの外国人に聞く	21	5.0%
近くの日本人に聞く	31	7.3%
子育て応援サイト「きら鈴」	14	3.3%
HP・Facebook「Amigo Suzuka」	21	5.0%
その他	115	27.1%
未回答	94	22.2%
合計	424	100.0%

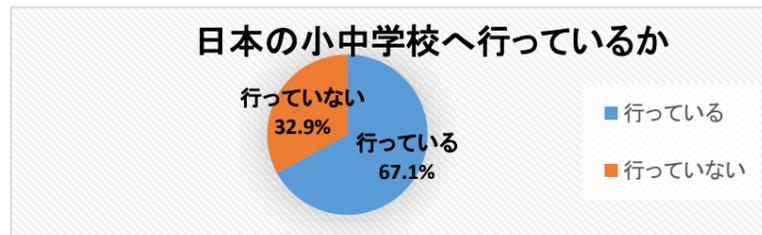


子育て情報の取得手段としては、「保育所や学校で聞く」が一番高い割合を占めており、私生活の中での行政機関・職員との関わりが外国人にとって求められていることがわかる。

26 日本の小中学校へ行っているか

※対象者のみ回答

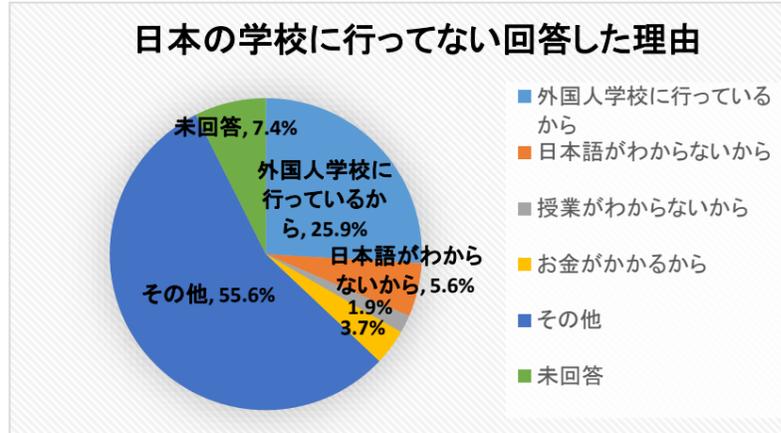
カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
行っている	110	67.1%
行っていない	54	32.9%
合計	164	100.0%



27 26で『行っていない』と回答した理由

※問26で『行っていない』と回答した54人のみ対象

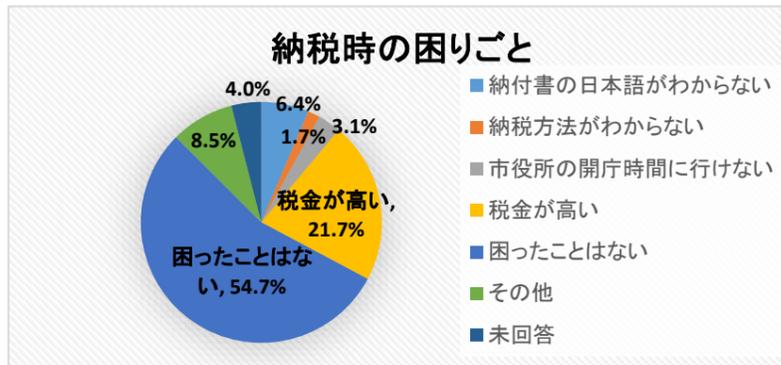
カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
外国人学校に行っているから	14	25.9%
日本語がわからないから	3	5.6%
授業がわからないから	1	1.9%
お金がかかるから	2	3.7%
その他	30	55.6%
未回答	4	7.4%
合計	54	100.0%



問26にて、日本の義務教育課程を利用していないと回答した外国人が3割(54人)を超えており、その理由としては、「外国人学校に行っている」が高い値を示した。

28 納税時の困りごと

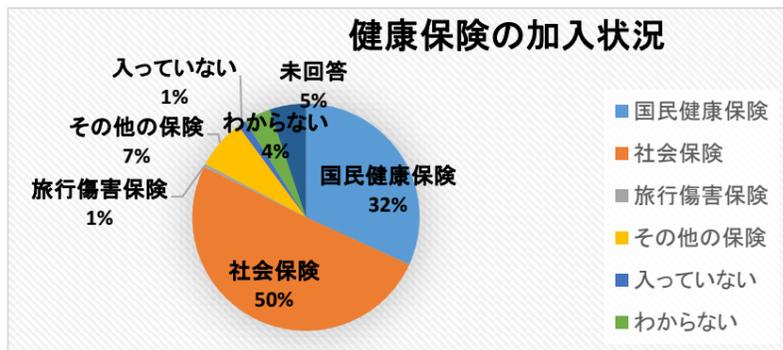
カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
納付書の日本語がわからない	27	6.4%
納税方法がわからない	7	1.7%
市役所の開庁時間に行けない	13	3.1%
税金が高い	92	21.7%
困ったことはない	232	54.7%
その他	36	8.5%
未回答	17	4.0%
合計	424	100.0%



「困ったことはない」が5割を超える値となる一方で、「税金が高い」が21.7%を示しており、納税において、就労状況や収入面で課題があることが考えられる。

29 健康保険の加入状況

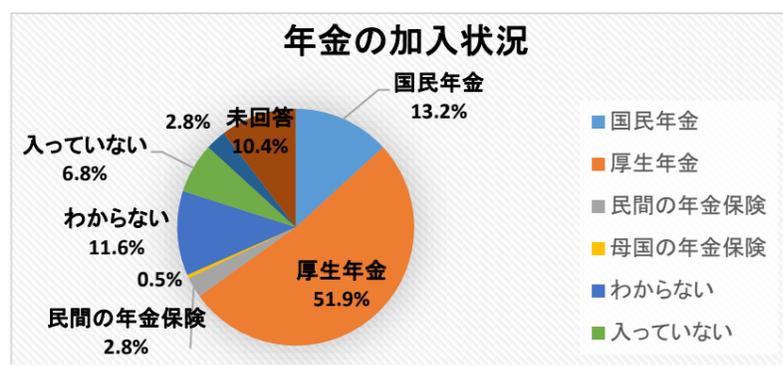
カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
国民健康保険	135	31.8%
社会保険	214	50.5%
旅行傷害保険	2	0.5%
その他の保険	30	7.1%
入っていない	5	1.2%
わからない	16	3.8%
未回答	22	5.2%
合計	424	100.0%



健康保険の加入状況については、8割を超える方が「国民健康保険」や「社会保険」へ加入している一方で、一部の回答者については、「その他の保険」(7.1%)へ加入していたり、「入っていない」(1.2%)、「わからない」(3.8%)といったものとなっており、この国の保険制度への理解が進んでいない現状が読み取れた。

30 年金の加入状況

カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
国民年金	56	13.2%
厚生年金	220	51.9%
民間の年金保険	12	2.8%
母国の年金保険	2	0.5%
わからない	49	11.6%
入っていない	29	6.8%
その他	12	2.8%
未回答	44	10.4%
合計	424	100.0%

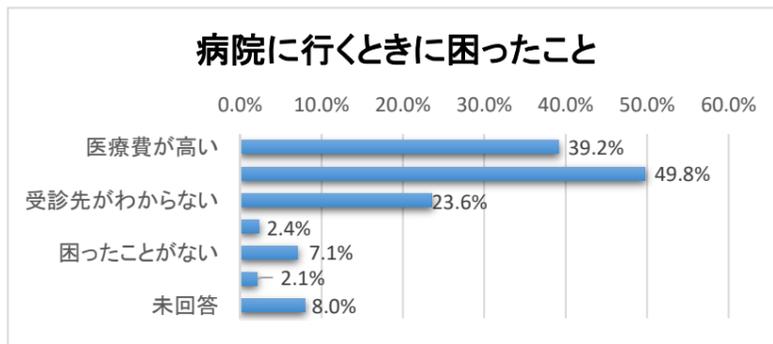


年金制度の認知状況については、「わからない」(11.6%)、「入っていない」(6.8%)が合計で18.4%を示した。このことは、問29の健康保険の認知状況(合計5%)と比較しても高い状況にあり、日本人同様、外国人の高齢化が進む中で制度の周知が必要であることが考えられる。

31 病院に行くときに困ったこと

※複数回答あり(n=424人)

カテゴリ	回答数 (件)	構成比 (%)
医療費が高い	166	39.2%
言葉がわからない	211	49.8%
受診先がわからない	100	23.6%
保険に入っていない	10	2.4%
困ったことがない	30	7.1%
その他	9	2.1%
未回答	34	8.0%

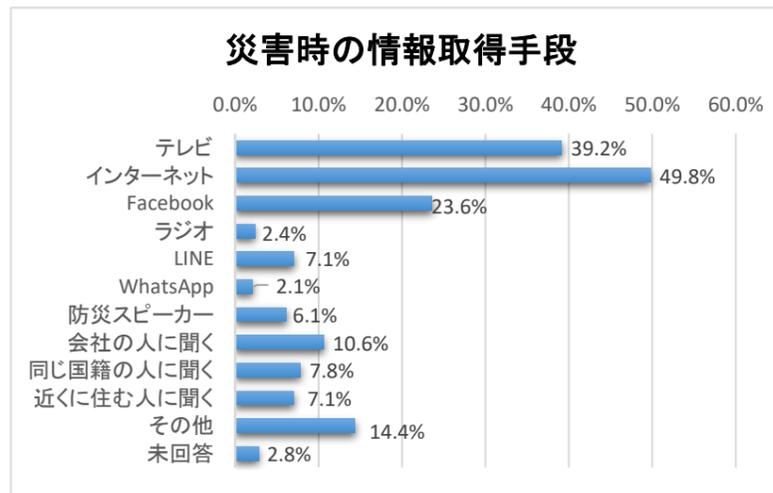


通院時に最も困っていることとして、「言葉がわからない」が約5割を占めており、多くの外国人が「言葉の壁」を課題に抱えていることがわかった。

32 災害時の情報取得手段

※複数回答あり(n=424人)

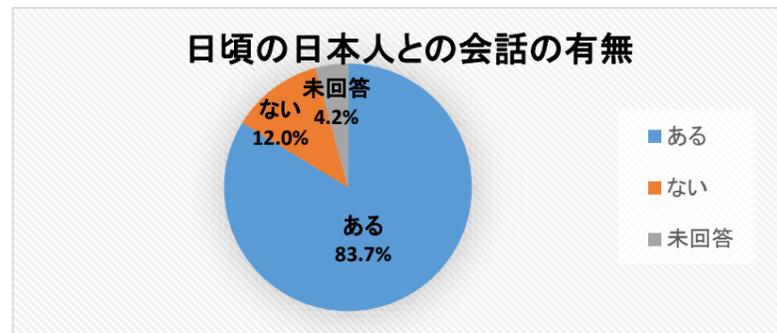
カテゴリ	回答数 (件)	構成比 (%)
テレビ	166	39.2%
インターネット	211	49.8%
Facebook	100	23.6%
ラジオ	10	2.4%
LINE	30	7.1%
WhatsApp	9	2.1%
防災スピーカー	26	6.1%
会社の人に聞く	45	10.6%
同じ国籍の人に聞く	33	7.8%
近くに住む人に聞く	30	7.1%
その他	61	14.4%
未回答	12	2.8%



災害時の情報取得手段として、約5割の方が「インターネット」を活用することがわかった。また、SNS等のアプリケーションについては、「Facebook」が一番高い値を示しており、「LINE」等の他のアプリとは異なり、外国人にとって大きな支持を得ていることがわかった。

33 日頃の日本人との会話の有無

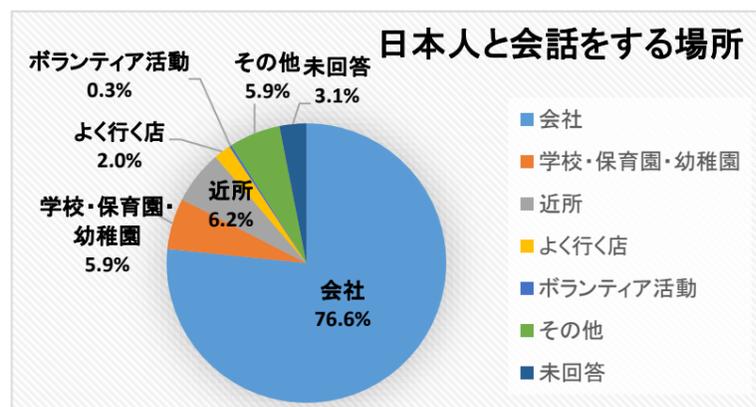
カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
ある	355	83.7%
ない	51	12.0%
未回答	18	4.2%
合計	424	100.0%



34 33で『ある』と回答した理由

※問33で『ある』と回答した人のみ対象
n=355人

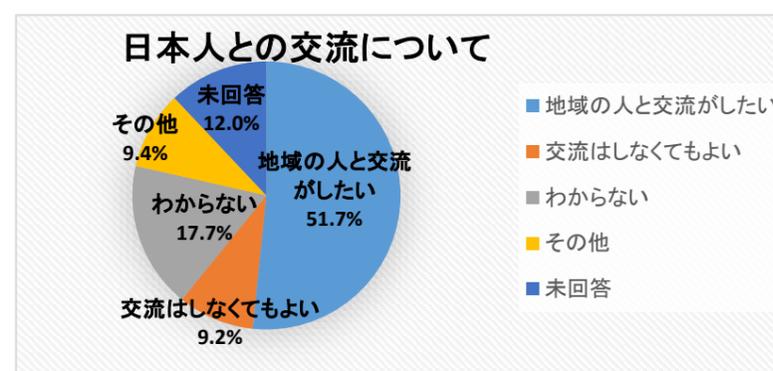
カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
会社	272	76.6%
学校・保育園・幼稚園	21	5.9%
近所	22	6.2%
よく行く店	7	2.0%
ボランティア活動	1	0.3%
その他	21	5.9%
未回答	11	3.1%
合計	355	100.0%



日頃、日本人と会話をする機会がある外国人にとって、問34の結果、その多くが「会社」(76.6%)であることがわかった。

35 日本人との交流について

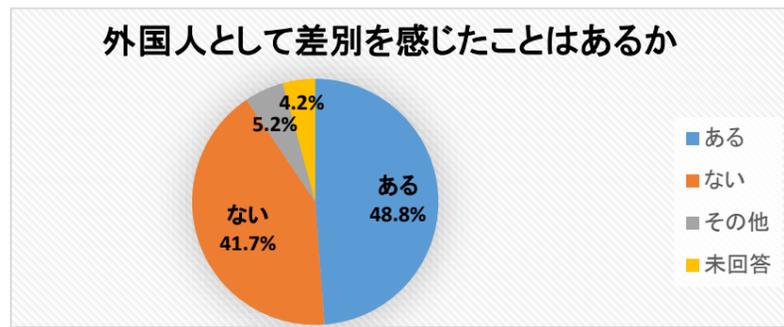
カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
地域の人と交流がしたい	219	51.7%
交流はしなくてもよい	39	9.2%
わからない	75	17.7%
その他	40	9.4%
未回答	51	12.0%
合計	424	100.0%



日本人との交流について、地域での交流を望んでいる方が過半数を超えており、多くの外国人が日本人との交流に前向きな考えを持っていることがわかった。加えて、「交流はしなくてもよい」(9.2%)と否定的な回答をしている外国人は極めて低い値を示しており、問37の「多文化共生社会の実現」の結果からも読み取れるとおり、外国人にとって、日本人との深い関係を望んでいることがわかった。

36 外国人として差別を感じたことはあるか

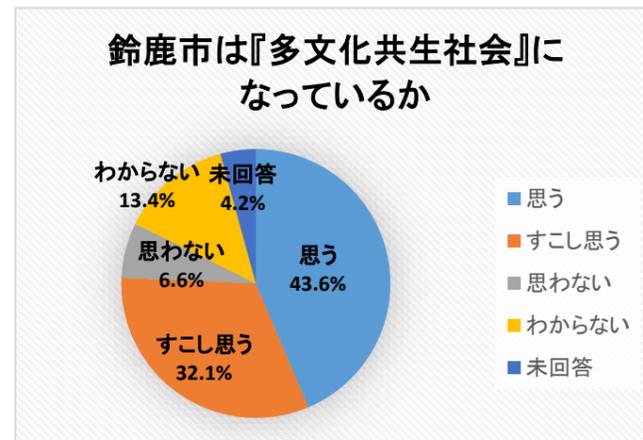
カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
ある	207	48.8%
ない	177	41.7%
その他	22	5.2%
未回答	18	4.2%
合計	424	100.0%



問35で日本人との関係に友好的な回答が目立った一方で、本問では差別を感じたことのある外国人が約5割と高い値を示している。ほぼ同じ値で「差別は感じたことがない」(約4割)と回答している方がいるものの、多文化共生社会を実現するうえで、日本人の外国人に対する意識の向上が重要であることが考えられる。

37 鈴鹿市は『多文化共生社会』になっているか

カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
思う	185	43.6%
すこし思う	136	32.1%
思わない	28	6.6%
わからない	57	13.4%
未回答	18	4.2%
合計	424	100.0%



多文化共生社会の実現について、肯定的な意見が7割を超えており、日本人の回答結果(21.1%)を大きく上回るものとなった。

38-1 「多文化共生社会」になっていると思う理由 (抜粋)

■ 行政

- ・広報やフリーペーパーでの文化の紹介や交流がのっているので、親しみやすいです。
- ・市役所などの公共の場でさまざまな国の言語で書かれた書類が用意されている場面を見てそう思いました。
- ・鈴鹿市ではいろいろな国際交流の場があるから。

■ 生活

- ・普通に生活が出来ているから。
- ・わたしが話しても、いやがらないできてくれる。
- ・特に不便を感じないから。
- ・いろんな国の方を良く見かけますが不自由のない様にフォローされていると感じます。

■ 人権

- ・色々な国や色々な方の思いやりを感じるから。
- ・昔とちがって今はインターナショナルで皆さんやさしいし、いじ悪しないからです。
- ・昔に差別があったが、鈴鹿にない。みんなやさしい。
- ・同じ国の人が多いので、そんなにめずらしくなくて差別もおこりにくいから。逆に仲良くてできる。

■ 教育・子育て

- ・外国人だけど、子供の関しては困ったことがない。
- ・お勉強のめんでも学校に外国人のお子さんの為に通訳の先生のサポートがあるため。

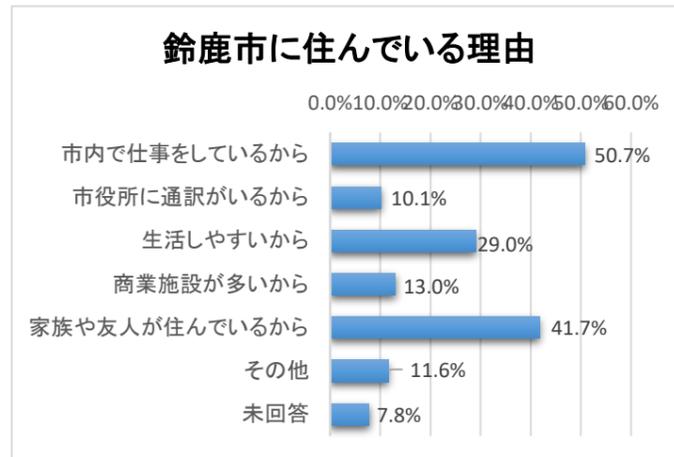
38-2 「多文化共生社会」になっていないと思う理由（抜粋）

- ・普段の生活であまり共生を感じる事が無い。
- ・（賃貸契約で）外国人差別を感じたことがある。国籍のみを理由に内見を断られることもある。
- ・賃貸などでは外国人というだけで、選択肢が大幅に減っています。多文化共生社会になっているとは、あまり感じませんでした。
- ・表では外国人を歓迎していたとしても、偏見の影響がない環境ではないと感じました。
- ・親や学校に通っている人など、公共の場で外国語を少しでもしゃべると、周りの方が嫌な顔をされたりします。
- ・大まかに言うと、外国人をよく思わない人（日本人）を時々見かける。
- ・鈴鹿市の問題ではなく日本の問題だと思う。
- ・市役所の対応で差別を感じる。

39 鈴鹿市に住んでいる理由

※複数回答あり(n=424人)

カテゴリ	回答数 (件)	構成比 (%)
市内で仕事をしているから	215	50.7%
市役所に通訳がいるから	43	10.1%
生活しやすいから	123	29.0%
商業施設が多いから	55	13.0%
家族や友人が住んでいるから	177	41.7%
その他	49	11.6%
未回答	33	7.8%

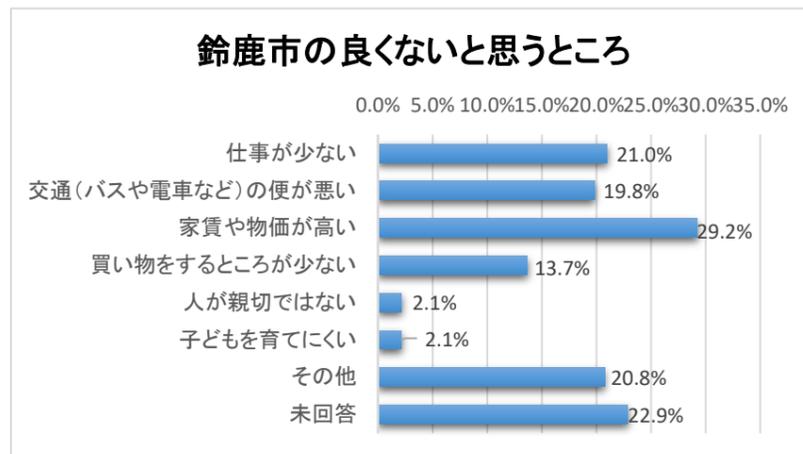


本市に住んでいる理由として、「仕事」が最も高い値を示しており、就労が外国人人口の増減を左右する大きな要因であることが考えられる。

40 鈴鹿市の良くないと思うところ

※複数回答あり(n=424人)

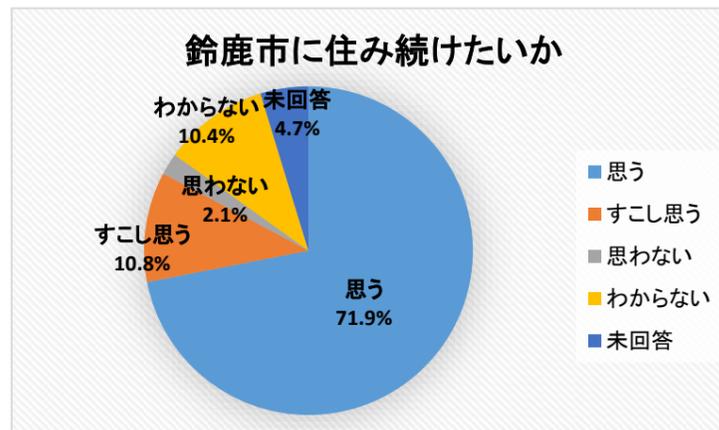
カテゴリ	回答数 (件)	構成比 (%)
仕事が少ない	89	21.0%
交通(バスや電車など)の便が悪い	84	19.8%
家賃や物価が高い	124	29.2%
買い物をするところが少ない	58	13.7%
人が親切ではない	9	2.1%
子どもを育てにくい	9	2.1%
その他	88	20.8%
未回答	97	22.9%



本市に居住する上で不便な点として、「家賃や物価が高い」(29.2%)が一番高い割合を示した。その一方で、全員回答の設問としては、各選択肢の構成比は低く、問41で「本市に住み続けたい」と回答する外国人が多いことと繋がりが考えられる。

41 鈴鹿市に住み続けたいか

カテゴリ	回答数 (人)	構成比 (%)
思う	305	71.9%
すこし思う	46	10.8%
思わない	9	2.1%
わからない	44	10.4%
未回答	20	4.7%
合計	424	100.0%



「思う」(71.9%)、「すこし思う」(10.8%)と住み続けたいと考えている外国人は、計8割を超える結果となった。また、「思わない」(2.1%)と否定的な回答者はごくわずかであり、全体的に肯定的な回答が多い結果となった。